

令和7年度 非核都市宣言平和事業実行委員会
第9回議事録（要旨）

日 時：3月21日（金）午後6：15～7：45

会 場：かたらいの道市民スペース

出席者（会場）：委員9名

（中里委員長、横山副委員長、牛田委員、田村委員、北山委員、木岡委員、金子委員、木川委員、内田委員）

事務局：3名

1 開会

2 議題

（1）令和7年度 憲法月間記念行事について【資料1】

・事務局より憲法月間記念行事について説明。

【委 員】憲法作品の募集についてはどのように広報を実施したか。

【事務局】市報、市のホームページや学校へのちらし配布等で広報を実施した。

【委 員】憲法作品の募集があった方の属性がわかるか。

【事務局】書道は書道教室から、絵手紙とイラストは市内のテンミリオンハウスからの応募が多い印象である。

【委 員】記念行事の講師謝礼について前回調整中とのことであったが決定したか。

【事務局】動画の後日配信と講演録のホームページへの掲載も承諾いただき、謝礼額については決定した。

・絵手紙の実行委員会賞を選出。

（2）令和7年度 夏季平和事業について【資料2】

・事務局より夏季平和事業について説明。

【委 員】来年度は戦後80年であるが、予算で特別な措置はあるか。

【事務局】毎年実施している事業については、例年通りの予算となっているが、長崎市への青少年平和交流派遣事業や新たな取り組みとして子ども向けのリーフレットを作成予定である。東京都市長会の助成金を利用して三鷹市との連携事業や、26市で成る平和首長会議東京都多摩地域平和ネットワークで高校生・大学生世代を平和ユースとして広島市に派遣する事業を実施予定である。

【委 員】東京都市長会とはどのような組織か。

【事務局】26市で負担金を出し運営している組織で、広域連携による事業等に助成金を出している。今回利用する助成金の正式名称は、多摩・島しょ広域連携活動助成金である。

【委 員】武蔵野市がいくら負担金を出しているかわかるか。

【事務局】令和6年度予算は、自治体の人口規模等により決まっている。

【委 員】助成金はいくらか。

【事務局】三鷹市との連携事業は、約187万円で、平和ユース派遣については約230万円である。全額助成金によって賄われる予定である。

(3) 1年間のふり返り

【委員】皆さんのご協力もあり、ふるさと歴史館の高野さんの講演をはじめとするイベントにもたくさん人数が集まったと思う。現在は、世界の状況としては厳しいこともあり、大きな歴史的な分岐点にあると思っている。若い人の関心がないのかというと、そんなことはないと思うが、アプローチの仕方に工夫がいるのかなと思う。本当に今の子供たちが心理的な安心感をなかなか得られないような世の中になっていると思う。テレビでガザ地区にいる方が、私たちには未来が見えないということを言っているのがすごく印象に残っていて、未来が見えるということと、若者の生きやすさっていう言葉が非常に結びついていると思うので、平和事業では戦争のことを扱うことが多いが、幅広く、平和とは何かを考えていけるような取り組みがこれから求められていると思っている。

【委員】私はこの会に参加させていただいて丸4年になるが、少しずつ武蔵野市のことをここで教えていただいて、学べてとても良かったと思う。ついていくが精一杯だったが、本当に貴重な時間を過ごさせていただいた。

【委員】何年間か委員をさせていただいているが、毎年平和事業があつて、そこに携われたことが、本当に私の財産になっている。戦争体験をお持ちの方が、何人もいらっしゃって、平和の啓発の大切さを改めて噛み締めるようになった。もし機会があれば、またこのような場に出させていただけるのなら、このような取り組みができるように少しでも自分の力が活かせるところで頑張りたいと思う。

【委員】今年は原爆80年でけやき会から証言集を出した。できたところにちょうど被団協がノーベル賞をもらい、本のラベルにノーベル賞と書かれたことをみんな喜んでいて。今後もまたお役に立てるように頑張っていきたい。

【委員】私は去年、今年と2年間参加させていただいている。今年はイベントとして、憲法月間と夏季平和事業のお手伝いをさせていただいた。私自身も、戦争や原爆のこの資料を読んだりして知識はあったが、夏季平和事業で、中島飛行機武蔵製作所で、こういうことがあったところを、強く実感した。あとは、実物の爆弾の破片の鉄塊を展示していただいていて、実際に持ってみたが、実物を見たり、触ったりというのは、とても生々しく印象的だった。平和事業を継続して、今後も実施していただければと思っている。

【委員】1番印象に残っているのは11月の施設見学である。1年間の振り返りだが、皆さんそれぞれ平和ということをおもわない人は誰もいないと思うが、平和の実現の仕方や平和の語り方というのは、人それぞれ大きく違っていると改めて思った。結局問題なのは、認識が非常に分裂しているような状況で、市が公的なお金を使って平和事業をやるというのは、非常に難しいと思う。お金を使うものとしてどうあるべきかということ、常に考えておかねばいけないと思う。そもそも、外交とか平和に関して、外交の権限や平和保障政策を持ってない自治体でどこまで踏み込めるのかなど、いくつか問題があると思う。最終的な予算の話は議会で決まれば、市民の代表である議員の先生たちが、この事業には意味があると思われたという事で、これは市民の総意とい

う事があるが、内容についてまではそこで議論されていなかった。来年もこの事業の運営のあり方を見守って参りたいと思っている。

【委員】国鉄の野球場の跡地のあたりに住んでいるので、平和問題、中島飛行場に関心があり活動をやっている。この1年を振り返ると、基本的には大きなイベント以外はだいたい参加できたが、施設見学には行けなかったのが残念であった。やっぱり1人でも多くの市民の方に平和のことを知ってほしいと思いながら、この実行委員会に参加させていただいた。

【事務局】10月に異動してまいりまして、半年間という所ですが、皆様のおかげで様々な事業が無事実施できたと考えている。来年度も皆様にご協力をいただきながら、憲法、平和の事業を実施させていただければと思っているのでご協力をお願いしたい。

【事務局】この1年間はバラエティに富んだ事業や今までなかった取り組みも皆様のおかげでできたと思っている。個人的であるが、市ヶ谷地区に行った際に、私の祖父が陸軍士官学校に行っており、小学校の時の社会の授業でインタビューをしてまとめたことを思い出した。祖父はもう亡くなってしまったが、印象に残っていたので、若い世代に体験を引き継いで、またそれを伝えていくということは大事なことで、今実感している。

【事務局】今年は戦争遺物を会場に置いて自由に触っていいですよというコーナーができたということと、そこに一定の反応があったということについて、これからの展開として1つのヒントがあったと思っている。様々なご意見をいただきながら、戦争の記録や記憶を繋げていく方法を模索しているが、戦没者の方への関心がなくなると記録も記憶も途絶えてしまうという話を聞き、関心を薄れさせないような事業の仕方が必要なのかなと思った。来年以降も力を貸していただければと思う。

【委員長】戦後80年という事で、各新聞が取り上げたことが大きな影響があったと思う。関心が高まったのは確かだが、子供たちに本当に伝わったかどうかは難しい。親として子供に一生懸命話しても、子供は関心を示さず聞いているだけということもある。どういう方法が良いのかずっと考えている。今後も頑張っていきたい。

【委員】副委員長となったのはとても大きい。個人の意見を発言しつつ、委員の皆さんからも多くの意見がでるようになってきた。今年が戦後80年ということもあり、色んな方の意識の高まりを感じた。憲法作品も多く応募があったこともその一つだと思う。

(4) その他

- ・謝礼の振り込みについては、令和7年4月中に行う。
- ・事務局より今年度活動の感想文の作成を依頼。200～300文字程度で作成し、4月25日（金）までに事務局へ。
- ・各委員による活動報告。

3 閉会